

平成28年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立市岡中学校

○ 学校教育目標

自律した個人として自己を確立させ、他者と協力しこれからの社会を担うことをめざさせ、心豊かに力強く生き抜く力を育む

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 「学力の向上」においては、日々の学習指導においての研究・工夫・改善などにより、生徒の学習に対する取り組みに良好な変化がみられており、成果が表れてきている。しかし、全国学力・学習状況調査結果において各教科とも全国平均を下回るなど、成果は得られていないのが現状である。
- 「道徳心、社会性の育成」においては、様々な教育活動の場面で、「互いを思いやる心の育成」を計画的・継続的に実践し、学校行事を計画実践していくなかで、協力し合う姿勢の定着がみられ、秩序ある集団に成長しつつある。さらに改善と向上を目指す必要がある。
- 「健康・体力の保持増進」においては、健康診断後の受診率を高め、生徒自身に自らの健康に大きな関心と注意力を身につけさせる。また、バランスの取れた朝食を毎日食べる割合を増やし、食育を推進する必要がある。
- 「特別支援教育の充実」 特別支援教育担当、特別支援委員会を中心に、生徒個々の状況をしっかりと把握するとともに、共通理解をし、全教職員で、生徒に寄り添い、一人ひとりを大切にしたきめ細やかな指導と支援の充実、定着を図る必要がある。

中期目標

【視点 学力の向上】

- 学校評価アンケートの「授業はわかりやすく楽しい」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(マネジメント改革関連)
- 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果において、A・B問題全領域で正答率が全国平均を上回る。(カリキュラム改革関連)
- 学校評価アンケートの「先生は自分たちの学力充実のために努力・工夫をしている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(マネジメント改革関連)
- 図書館の週の開館回数を7回以上にし、学校評価アンケートの「読書が好きだ」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 放課後や土曜日そしてテスト前や長期休業日中の自主学習(補習を含む)の参加生徒を延べ500人以上とし、学校評価アンケートの「家で勉強をしている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 学校評価アンケートの「学級や学年でいじめや問題行動が起きない雰囲気がある」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 学校評価アンケートの「地域や防災の活動に役立ちたい」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 学校評価アンケートの「学校が開かれている」と回答する保護者の割合を90%以上とする。(ガバナンス改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 学校評価アンケートの「朝食はしっかり摂っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 学校評価アンケートの「自分の健康に関心を持っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 学校評価アンケートの「地域や防災の活動に役立ちたい」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 「体力・運動能力、運動習慣調査」において、全国平均を上回る。(カリキュラム改革関連)

【視点 特別支援教育の充実】

- 障がいのある生徒の「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を保護者との共同作業で作成する。そして、学校評価アンケートの「一人ひとりをたいせつにした教育を推進している」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 校内のユニバーサルデザインを確立し、授業のユニバーサルデザインを推進し、学校評価アンケートの「学校の教育環境は整っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 学校評価アンケートの「授業はわかりやすく楽しい」と回答する生徒の割合を80%以上とする。(マネジメント改革関連)
- 今年度全国学力・学習状況調査の結果において、A・B問題全領域で正答率が大阪府平均を上回る。(カリキュラム改革関連)
- 学校評価アンケートの「先生は自分たちの学力充実のために努力・工夫をしている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。(マネジメント改革関連)
- 図書館の週の開館回数を7回以上にし、学校評価アンケートの「読書が好きだ」と回答する生徒の割合を80%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 放課後や土曜日そしてテスト前や長期休業日中の自主学習(補習を含む)の参加生徒を延べ500人以上とし、学校評価アンケートの「家で勉強をしている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。(マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 学校評価アンケートの「学級や学年でいじめや問題行動が起きない雰囲気がある」と回答する生徒の割合を80%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 学校評価アンケートの「地域や防災の活動に役立ちたい」と回答する生徒の割合を80%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 学校評価アンケートの「学校が開かれている」と回答する保護者の割合を80%以上とする。(ガバナンス改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 学校評価アンケートの「朝食はしっかり摂っている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 学校評価アンケートの「自分の健康に関心を持っている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 学校評価アンケートの「地域や防災の活動に役立ちたい」と回答する生徒の割合を80%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 「体力・運動能力、運動習慣調査」において、大阪府平均を上回る。(カリキュラム改革関連)

【視点 特別支援教育の充実】

- 障がいのある生徒の「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を保護者との共同作業で作成する。そして、学校評価アンケートの「一人ひとりをたいせつにした教育を推進している」と回答する生徒の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革関連)
- 校内のユニバーサルデザインを確立し、授業のユニバーサルデザインを推進し、学校評価アンケートの「学校の教育環境は整っている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。(カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

- 学校評価アンケートの「授業はわかりやすく楽しい」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 (マネジメント改革関連)
⇒肯定的な意見を回答した全生徒は65%にとどまり、最も高い2年生でも69%で、指標とした80%に届かない結果であった。特に、中間アンケート結果よりも平均で11%の低下がみられ、特に1年生においては59%と最も低く、改めて「分かりやすい」授業を実践していかなければならない。
- 今年度全国学力・学習状況調査の結果において、A・B問題全領域で正答率が大阪府平均を上回る。 (カリキュラム改革関連)
⇒国語Aは0.5ポイント、国語Bは5.8ポイント、数学Bは2ポイント大阪府の正答率を上回った。一方、数学Aは0.4ポイント下回る結果となった。
- 学校評価アンケートの「先生は自分たちの学力充実のために努力・工夫をしている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 (マネジメント改革関連)
⇒2学期以降、授業以外に個々の生徒の学力に応じたプリント配布や放課後に個別に学習する機会を設けるなどの工夫を行ったが、肯定的な回答をした全生徒は79%であり、目標に到達する事が出来なかった。
- 図書館の週の開館回数を7回以上にし、学校評価アンケートの「読書が好きだ」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 (カリキュラム改革関連)
⇒図書館の開館回数は週5回であった。また年間を通じて「朝読書」を朝学活前に通年実施してきたが、読書が好きだと肯定的に回答している全生徒の割合は、50%と約半数であった。特に、中間アンケート結果同様、全く当てはまらないと回答している生徒が各学年とも23%以上の生徒が回答している状況にあり、今後「読書」に親しむ手段方法を再検討する必要がある。
- 放課後や土曜日そしてテスト前や長期休業日中の自主学習(補習を含む)の参加生徒を延べ500人以上とし、学校評価アンケートの「家で勉強をしている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 (マネジメント改革関連)
⇒9月末までに元気アップの勉強会に参加した生徒は、延べ500人以上であった。また家庭学習に関しては全生徒で62%、家庭で自学自習が最も必要である3年生も中間より微増の67%であった。自主的に勉強する必要性をいかに生徒に伝え、感じさせ、実行に移す事が出来るか、場の設定も含め再考する必要がある。
- ★6月実施のH28 チャレンジテストの結果より国語・社会が府平均値以上、数学が概ね府平均値、英語・理科が府平均値以下であったが、明らかに全教科の平均値は上昇している。生徒自身は実感するレベルにまで達していないと判断している状況であるが、テスト分析からはこれまでの教科指導や補習授業、生徒個々の学習状況が改善されてきている状況がうかがえる結果であった。今後はより粘り強く“勉強癖や読書癖”を身に付けさせるとともに、学力向上を実感できるように指導していく必要がある。

【視点 道徳心・社会性の育成】

○学校評価アンケートの「学級や学年でいじめや問題行動が起きない雰囲気がある」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 (カリキュラム改革関連)

⇒中間同様、全生徒の肯定的な回答は76%で目標を下回った。「全く当てはまらない」を選択し、現状に危機感を抱いている結果は3%改善され7%であった。1年生では肯定的に捉えている生徒が前回よりも5%増加し70%と改善された。今後は全学年最低80%のラインを大幅に上回るために、常にいじめに対する危機感を持って行動し、とりわけ「あまり当てはまらない」と回答し、現状に不安を感じている生徒たちの実態を紐解く取り組みが必要である。

○学校評価アンケートの「地域や防災の活動に役立ちたい」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 (カリキュラム改革関連)

⇒全生徒の肯定的な回答は71%で目標を下回る結果であったが、中間よりも14%上昇する結果であった。しかし実際に「地域の行事に参加している」生徒は、50%と約半数にとどまり、まだまだ地域との距離が広いままであることが浮き彫りとなった。

○学校評価アンケートの「学校が開かれている」と回答する保護者の割合を80%以上とする。 (ガバナンス改革関連)

⇒学校が開かれた環境にあると肯定的に回答した保護者の割合は、全学年ほぼ同じ割合となり、目標を上回る86%であった。今後もより一層オープンに努めていく。

★生徒アンケートから、「道徳心や人権について学ぶ機会が多く、「命の大切さや自他を尊重し互いを思いやる心を養えている」については85%、「いじめはどんな理由であれ許されない行為であると学び、実践する事が出来た」については91%の生徒が肯定的に回答し、また保護者アンケートの「命の大切さや社会のルールを守る態度を育てている」では88%が、「人の生き方や心豊かな心の在り方について学んでいる」については80%と肯定的な回答を得た。以上より、多くの生徒達は一定の道徳心や社会性は向上し、善悪の判断を持ち行動していることが伺える。今後より一層自己肯定感を向上させる指導を行う。

【視点 健康・体力の保持増進】

○学校評価アンケートの「朝食はしっかり摂っている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 (カリキュラム改革関連)

⇒全生徒の肯定的な回答は、82%となり目標をクリアしているが、全学年に朝食を食わずに登校している生徒が4%前後いるため、今後の食育指導を徹底したい。

○学校評価アンケートの「自分の健康に関心を持っている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。
(カリキュラム改革関連)

⇒全生徒の79%が検診結果による治療なども行い、健康に気を付け生活していると肯定的に回答しているが、目標値にはあと一步届かなかった。朝食事項と同様に全学年、4%前後の生徒が全く治療にも行けていない状況にあり、健康に対する関心が低く、今後の治療勧告や健康指導の工夫を行う必要性がある。

○「体力・運動能力、運動習慣調査」において、大阪府平均を上回る。

(カリキュラム改革関連)

⇒男子は、全テスト項目で大阪府平均値を大きく上回り、特に長座体前屈と50m走以外の6項目で全国値を上回り、目標をクリアした。一方女子においては、反復横跳びのみ大阪府平均値を下回ったものの、それ以外の7項目においては全て全国平均値を上回る結果であった。昨年度より取り組み始めている体力アクションプランにおけるアジリティ系トレーニングの効果が徐々に始めていると考えられる結果であった。

【視点 特別支援教育の充実】

○障がいのある生徒の「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を保護者との共同作業で作成する。そして、学校評価アンケートの「一人ひとりをたいせつにした教育を推進している」と回答する生徒の割合を90%以上とする。

(カリキュラム改革関連)

⇒「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」については保護者の意向も確認したうえで、共同で作成することが出来た。また、「いじめを含めたトラブルについてすぐに対応してくれる」と肯定的とした全生徒の回答率は76%、「先生は学力を充実させるための努力と工夫を行っている」と肯定的に回答した全生徒は80%となり、生活面、学習面から生徒を大切にしたい教育を育んでいる姿勢は、目標の90%に達していない状況であった。

○校内のユニバーサルデザインを確立し、授業のユニバーサルデザインを推進し、学校評価アンケートの「学校の教育環境は整っている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。
(カリキュラム改革関連)

⇒授業のユニバーサルデザイン化については、徐々に進められ美術室、理科室、音楽室・被服室・通常学級教室(1-2)の椅子と机の脚に廃テニスボールを装着し静音効果につなげた。

しかし、教育環境については、保護者アンケートから「整っている」と肯定的に回答しているのは73%にとどまり、目標を下回る結果となった。

大阪市立市岡中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ○学校評価アンケートの「授業はわかりやすく楽しい」と回答する生徒の割合を80%以上とする。（マネジメント改革関連） ○今年度全国学力・学習状況調査の結果において、A・B問題全領域で正答率が大阪府平均を上回る。（カリキュラム改革関連） ○学校評価アンケートの「先生は自分たちの学力充実のために努力・工夫をしている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。（マネジメント改革関連） ○図書館の週の開館回数を7回以上にし、学校評価アンケートの「読書が好きだ」と回答する生徒の割合を80%以上とする。（カリキュラム改革関連） ○放課後や土曜日そしてテスト前や長期休業日中の自主学習(補習を含む)の参加生徒を延べ500人以上とし、学校評価アンケートの「家で勉強をしている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。（マネジメント改革関連）	C
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①－1 【教務部 授業を伴う校内研修の充実】 ・全教職員が年1回以上の公開授業を実施し、意見交換をする中で、指導力の向上を目指す。（マネジメント改革関連） ・各教職員が、説明・板書・発問の実施方法を見直し、生徒にとって「わかりやすい授業」となるよう工夫する。（カリキュラム改革関連） ・初任者や若手教員と中堅・ベテラン教職員によるOJTを実践する。（マネジメント改革関連）	B
指標 ・全教職員が年1回以上、授業研究を実践する。 ・今年度の授業アンケート調査で、「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を80%以上とする。	
取組内容①－2 【教務部 自主学習習慣の確立】 ・宿題や課題の提出、確認テストなどの実践により、生徒の学習理解度を確認し、生徒が一人で学ぶことができる学習教材を提供し、自主学習の習慣を身につけさせる。（カリキュラム改革関連） ・宿題を提出させ、予習・復習を定着させ、家庭で学習する習慣をつけさせる。（カリキュラム改革関連）	C
指標 「全国学力・学習状況調査」において、「家で復習している・どちらかといえばしている」と答える生徒の割合を80%以上とする。	

<p>取組内容①－３【教務部 ICT 機器の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の活用により、視覚的に教材提示をすることで、生徒にとって授業が楽しく、わかりやすくなるような工夫をする。(マネジメント改革関連) ICT 機器の整備を進め、活用に関する校内研修を実施する。(マネジメント改革関連) <p>指標 「教職員対象のアンケート」において、「ICT 機器を用いた授業を行っている」と回答する教員を 70%とする。</p>	B
<p>取組内容②－１【各教科】〈国語〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、筋道立てて適切に文章を書くことができるよう、作文指導、手紙・葉書の書き方指導を行い、「書く能力」の向上に努める。 話を的確に聞き取り、丁寧にかつ適切に文章化する力を養えるよう、ノートのまとめ方の指導や、聞き取りテストを行う。さらに、聞き取った情報を踏まえて、目的や場面に応じて筋道を立てて話すことができるように指導することで、「話す・聞く能力」の向上を図る。 読書の習慣を身につけさせ、文章を的確に読み取り、読書に親しみを持つことができるよう、図書館を利用した授業づくりや、朝読書の振り返りを行うことで、「読む力」の育成につなげる。 これら全ての基盤をつくりながら、語句、語彙、漢字等の力を身につけさせることで、「知識・理解・技能」の力を高める。 様々な授業づくりを行いながら、言語活動に進んで取り組み、互いに伝え合うことに熱心な姿勢がみられるよう、国語への「関心・意欲・態度」を高める。 <p>(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 少人数授業に関する実施前後のアンケートの項目「国語の授業はわかる」において、「よくあてはまる」「あてはまる」といった肯定的な意見の割合を 10%増やす。2 学期実施の実力テスト「国語」の平均正答率を 66% (1 年)・57% (2 年)・57% (3 年) とする。</p>	B
<p>取組内容②－２【各教科】〈社会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 時事問題を提示することにより、社会に関する関心を高める。 資料を多く用いることにより、社会的事象についての思考力をつけ、社会の変化をふまえて公正に判断し、表現することができるようにする。 演習問題に取り組むことにより、社会的事象に対する知識の定着を図る。 <p>(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 平成 28 年度の「学校評価アンケート(生徒)」の結果において、授業はわかりやすい、の割合を 80%以上とする。時事問題にかかわる掲示物を掲示し、関心を高める。チャレンジテストの平均点を 60 点以上とする。</p>	B
<p>取組内容②－３【各教科】〈数学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的事項の習熟を図り、基礎学力の向上に努める。特に導入における教材の工夫を 	

<p>進めることで『関心・意欲』を高め、学習に対する適切な『態度』をより育みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の授業において復習の機会を確保し、小テストなど理解度の確認を行うことで『知識・理解』を深め、練習問題に繰り返し取り組ませることで数学的な表現や処理を行う『技能』を高めたい。 ・ 事象を多面的にとらえ、ひとつの設問に複数の解法を見出すなど数学的な『見方・考え方』を身に付けるため、基礎学力の向上に加えて発展的な内容に取り組む力を養う。 <p>(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟授業の実施前後のアンケートにおいて、「今の授業形態が自分の学習に相応しいと思う」の割合を10%上げる。 ・ 2学期実施の実力テスト『数学』の平均正答率を全学年57%以上にする。 	
<p>取組内容②ー4【各教科】〈理科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「感心・意欲・態度」 発達段階に応じて、子どもたちが知的好奇心を持って自然に親しめるように、観察実験を多く取り入れる。 ・ 「思考・表現」 指導内容に応じて、観察や実験の結果を整理し考察する学習活動を取り入れる。科学的な考え方をを用いて表現できるようになる。 ・ 「技能」 主体的に実験・観察に参加できるような実験技能の習熟をめざす。 ・ 「知識・理解」 科学的な認識の定着を図り、調べる能力や正しく判断する能力を養う。 <p>(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「平成28年度の学校評価アンケート(生徒)」の結果において、授業はわかりやすい、の割合を80%以上とする。 ・ チャレンジテストの平均点を55%とする。 	
<p>取組内容②ー5【各教科】〈音楽〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「意欲・関心・態度」 開始前に授業の準備をきちんと揃え、指示や説明を正しい姿勢で関心をもって聞く。実技では意欲的に声を出し、表情や身体を動かす等、提示された内容に真剣な態度で取り組む。 ・ 「創意工夫」 音楽の表現を高めるために、どんなことを工夫するか考え、判断し、実践につなげるよう努力する。また、楽譜に書かれている記号などを意識しているかを毎回の授業や実技テスト、筆記テストにより確認する。 ・ 「技能」 発声、発音、奏法、ブレスコントロール、音程、表情、リズム感、曲のまとまりや雰囲気表現する技能が身についているか、授業や実技テスト等で確認する。 ・ 「鑑賞の能力」 作曲家の意図や思い、演奏者の意図を感じ取り、理解し、それを言葉に表してプリントにまとめる。また、音楽作品の作られた時代背景に興味をもち、理解しようと努める。学習した内容を提出プリントや筆記テストにより、定着を図る。 <p>(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標</p> <p>「平成28年度の学校評価アンケート(生徒)」の結果において、授業はわかりやすい、の割合を80%以上にする。</p>	

取組内容②－6 【各教科】〈美術〉	
<ul style="list-style-type: none">・授業の準備物やプリント、作品の提出ができること。また、準備や後片付けを含む、意欲的な姿勢で実習に取り組む態度を養い、伸ばす。・課題を通して、独創的なアイディアで表現ができ、計画的に作業ができる能力を養う。・実習において、創造的な技能を養い伸ばす。・鑑賞では、自他の作品を認め合う心情を養い、美術的文化が学習できるようにする。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	B
指標 授業で取り組んだ課題の提出の割合が 80%以上である。	
取組内容②－7 【各教科】〈保健体育〉	
<ul style="list-style-type: none">・ 実技に必要な用具をそろえ、毎時間実施するランニング、ラジオ体操等の準備運動を意欲的に取り組んでいるかなどを確認することで関心・意欲・態度を高める。・ 単元ごとの記録カード(考察項目含む)等を記入させることにより、各自の思考・判断力を高める。また、相互点検させることで、互いの技能や形などの確認点検を行い、理解、適切な判断、指示できる力を養う。・ 実技テスト、記録を通じ、運動の楽しさ、喜びを味わう技能を高める。・ 定期考査、学習ノートなどを通じ、保健体育に関する総合的な知識・理解を高める。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	B
指標 平成 2 8 年度の大阪市体力・運動能力調査」の結果において、各学年の体力合計得点を大阪府平均以上にする。	
取組内容②－8 【各教科】〈技術・家庭〉	
<ul style="list-style-type: none">・生活の自立に必要な生活力の定着を目指し、生徒一人一人が自主的に取り組み、互いに協力し合い、基礎基本的な知識や技能の定着に努める。・「関心・意欲・態度」については、授業への積極性、話を聞く姿勢、班活動で意見を発表するなどの授業態度、提出物や毎回の忘れ物チェックなどをもとに評価する。これらをもとに、意欲的に授業に参加することで、より良い生活を送るための知識や技術を進んで活用しようとする力を養う。・「工夫し創造する能力」については、毎回の授業のノートやプリントにメモを取り、テスト前の自主学習等を提出することで、自ら主体的に工夫・創造する力を養う。・「技能」については栽培・調理・裁縫等の実習や作品を丁寧に正確に作れているか、実習レポートを丁寧に完成させて提出しているか等を基に、基礎的な技術を身に着ける力を養う。・「知識・理解」については、定期テストを行うことにより、学習した内容のさらなる定着を図る。 <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	B
指標 「平成 2 8 年度の学校評価アンケート(生徒)」の結果において、授業はわかりやすい、の割合を技術・家庭科の平均をとって 80%以上にする。	

取組内容②－ 9 【各教科】〈英語〉		B
<ul style="list-style-type: none">・「関心・意欲・態度」については、提出物(自主学習ノートも含む)や忘れ物チェック等を入念に行う。また授業中については積極性やサポート姿勢についてもチェックする。・「表現の能力」について、スピーキングテストや英作文においては C-NET の先生とも連携を深める。・「理解の能力」については、授業中においてリーディングテスト、リスニングテストまた、定期テストや実力テストにおいて読解力をはかる。・「知識」については、主に定期テストや実力テストにおいて、英文法やその他文化的な事柄についてははかる。 (カリキュラム改革関連)(グローバル化改革関連)		
指標	<ul style="list-style-type: none">・少人数授業の実施前後のアンケートにおいて、「今の授業形態が学び易いと思う」の割合を 10% 上げる。・2 学期実施の実力テストの平均正答率を 70%(1 年)、65%(2 年)、55%(3 年) 以上とする。	
取組内容③ 【図書館】		B
<ul style="list-style-type: none">・図書館の利用人数を増やし、読書の習慣を身につけさせる。(マネジメント改革関連)		
指標	図書館の利用率を 20%以上とし、生徒アンケートにおいて「読書の習慣がついてきている」とする肯定的な意見を 50%以上とする。	
取組内容④ 【若手教員研修の充実】		A
<ul style="list-style-type: none">・校内研究授業、各種校内研修の充実を図り、教科指導力を含む、教師力の向上を図る。 (マネジメント改革関連)		
指標	経験年数 5 年以内の教員を中心に、教科指導力を高めるため、校内の研究授業や各種研修を昨年度よりも多く実施する。	
取組内容⑤－ 1 【学力向上 各学年 1 年】		B
<ul style="list-style-type: none">・各教科の自主学習を充実させ、テスト前や長期休業中の補習を行い、基礎・基本的な事柄の定着を目指す。 (マネジメント改革関連)		
指標	チャレンジテストの無回答率を、昨年度の水準より減らす。	
取組内容⑤－ 2 【学力向上 各学年 2 年】		B
<ul style="list-style-type: none">・各教科の自主学習を充実させ、テスト前や休業中を中心に補習学習を行い、基礎学力の向上を目指す。		
指標	チャレンジテストの平均正答率を 55%以上にする。	
取組内容⑤－ 3 【学力向上 各学年 3 年】		B
<ul style="list-style-type: none">・家庭学習・自主学習を定着させる。また補習学習を充実させ、基礎学力の向上を目指す。		
指標	チャレンジテストの平均正答率を昨年より 1 ポイント以上上げる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①－１【教務部】授業を伴う校内研修の充実

２学期後半と３学期で、全教員の研究授業を全て行う予定である。しかしながら、教科ごとの反省会を行うことができて、全教職員での研究協議を行うことができなかった。また、教科の異なる研究授業に参加し、アドバイスシートを利用する教員も少なかった。

取組内容①－２【教務部】自主学習習慣の確立

「全国学力・学習状況調査」において、『家で宿題をしていますか』の質問に対し、している・どちらかといえばしている と回答した生徒の割合は６１％であった。『家で学校の授業の復習をしていますか』の質問に対しては、わずか３０．８％であった。家での学習は宿題をしているのみという生徒が多く、それすらもやれていない生徒も少なくない。

取組内容①－３【教務部 ICT 機器の活用】

プロジェクタ・大型モニター・タブレットの使用回数は多くなってきている。しかしながら、インターネットの環境や接続方法などの周知徹底が広まっていないため、提示・撮影などの使用方法が主である。ICT 委員会を中心に活用方法を検討していく必要がある。

取組内容②－１【各教科】〈国語〉

【書く】課題に沿った作文の書き方指導や葉書を使った手紙の書き方など、多岐にわたる場面を想定して書く指導を行った。また、文化祭では第三学年で筆ペンを使って自作の俳句を、第二学年で毛筆を使い行書で書く作品を展示して書写の指導も行った。

【話す・聞く】１、２学期に異なる課題のスピーチに取り組んだ。課題を行うだけではなく、話し方に工夫が出るよう評価基準を明確にして指導した。また、聞き取りテストを行う上でメモの取り方も合わせて指導し、聞く力についても指導した。授業後はクラス代表を選び校内大会を行うといった発展した学習内容にもつなげられた。

【読む】朝読書の取り組み、「話す・聞く」観点で行うブックトークと関連付けて、授業内で図書室利用を行った。１学期末のアンケートでは４５％の生徒が「読書の習慣がついてきている」設問に対し「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」という肯定的な回答をしていたが、学年末では５１％と過半数を上回った。読書だけでなく長文を間違えずに音読できること、古文の暗唱が読解につながると説明し、読む指導を行った。

【知識・理解】毎週の漢字・語句プリントの配布や小テストを行うことで、語彙力の定着に努めた。漢字プリントは視写するだけではなく用例を考えさせる欄も入れることで活用力も育成した。

【関心・意欲】新しい単元での導入やまとめで ICT 機器を用いての視覚資料を使ったり、時季に沿ったことわざや本の紹介を授業の導入としておこなったりすることで、関心・意欲を高めるよう工夫した。

取組内容②－２【各教科】〈社会〉

３年生のチャレンジテストにおける平均点は５７．１点で大阪府平均５２．２を大きく上回ったが、目標の６０点には至らなかった。新聞記事やインターネットのニュースなどで時事問題を提示し、授業の導入などで話をするなど、関心を高められたが、平均は上回るものの目標には到達できなかった。生徒の関心意欲も高い中での結果なので、目標の再設定を考えたい。

１・２年生でも、プリントや資料集、ＩＣＴを用いて資料を活用させ、またその分析を表現する機会を多く設け、３年生での結果につながるよう指導している。また、ＡＬを取り入れた授業も展開しており、時事問題の提示だけではなく、関心意欲を高めることができた。しかし、その分、演習問題に取り組む時間は少なかった。

取組内容②－３【各教科】〈数学〉

今年度の数学の授業では、習熟度別授業を１学期に２年生で、少人数分割授業を２学期に１年生で行い、その前後でアンケートを取った。結果、２年生のアンケートで『数学の学習が分かる』の質問に対し、そう思う・どちらかと言えばそう思うと答えた生徒の割合は、７０．９％⇒７２．８％で、『授業形態が今の自分にふさわしい』の質問に対し、５３．３％⇒７１．５％であった。

１年生のアンケートでは、『数学の学習が分かる』の質問に対し、６２．９％⇒５５．６％で、『授業形態が今の自分にふさわしい』の質問に対し、５２．４％⇒５１．７％であった。結果を分析すると、同じ少人数授業でも、単純分割授業より習熟度別授業の方が生徒にとってふさわしい授業形態であり、結果に繋がっていると考えられる。また、『数学の自主学習に取り組んでいる』の質問では２年生が３６．４％⇒４０．４％、１年生が４６．９％⇒３５．９％と自主学習に取り組む割合の増減がそのまま理解力に繋がっていると考えられる。

２学期実施の実力テストの平均は２年生で４８．３点、１年生で平均４９．８点で共に５０％を切っている。既習の事柄について復習する時間を増やして授業を行うとともに、自主学習や家庭での復習をさらに促していく必要がある。

取組内容②－４【各教科】〈理科〉

本年度は大阪市全市研究発表会で研究授業を２クラス行った。ＩＣＴ機器を取り入れた授業、アクティブ・ラーニングや実験観察の内容について研究・ご指導いただいた。チャレンジテストでの平均正答率において大阪府平均との差が２８年１月では－６．９ポイントだったが、２８年９月では－５．９ポイントと０．６ポイント改善した。府平均との差はまだまだ大きいので、基礎的内容を中心に指導していく必要がある。

取組内容②－５【各教科】〈音楽〉

・「意欲・関心・態度」毎時間「本時の予定」と「ねらい」を明確にすることにより、生徒自身で教科書を先に見て予習している様子などが見られた。特に歌唱授業後の自己評価カードに(本時の集中

度)の項目に全体の8割の生徒がA評価をしている。

- ・「創意工夫」曲のどの部分をどのように表現したいかということをワークシートへ記入することはできるようになってきたが、記入したことを表現するという事は難しい。楽しい雰囲気、優しい雰囲気、曲など曲の様子に合わせてステップや手拍子、スイングなどを取り入れ体で表現しながら演奏することを取り入れたことにより、理屈でなく自然に音色を変える工夫をした。
- ・「技能」発声・発音・ブレスコントロール・音程・表情・リズム感・曲のまとまりや雰囲気を表現する技能の到達度を測る実技テストでは、全ての項目の8割以上を満たしたのは3年生では5割、2年生では4割、1年生では4割が満たした。3年生の達成度が高いこと、また、1年と2年の差が見られなかったことは1年生の授業が週2時間であることから、積み重ねの大切さがわかる。
- ・「鑑賞の能力」作曲家や音楽作品について学習した内容のプリントに記入だけでなく、さらに学習した同じ課題に対し、自主学習をして提出する生徒が1割ほどだが、出てきた。

取組内容②－6【各教科】〈美術〉

- ・授業の準備物では、学期始めに忘れ物が目立ったが、2学期より3学期では、どの学年も減った。また、完成作品の提出において、どの学年も90%を超え、よく頑張っており取り組んでいる。
- ・実習課題では、どのような表現ができるか、じっくりと向き合う下描きの段階で時間がかかった。その結果、計画的な作業としては、遅くなりがちであったが、作品完成まで頑張る姿勢が見られた。
- ・実習において、共に創る喜びを味わうことができるよう努め、他者の作品にも関心を向けたり、自分の創造活動に生かし工夫しようとしていた。
- ・鑑賞では、実習課題の参考作品・資料、プリントだけでなく、各学年で完成した実習作品を展示し、鑑賞できる機会を作った。また、自分の作品を客観的に鑑賞し、自己評価したり、表現内容や工夫できた点、感想を書かせたりして、作品を深く見つめる感性が養えるよう指導に努めた。

取組内容②－7【各教科】〈保健体育〉

授業前のランニング、ラジオ体操、トレーニングを丁寧に確実に取り組むことのできる環境づくりを行い、年間を通して基礎体力の上達をはかっている。

トップアスリート夢授業や体力づくりアクションプランなどの取り組みで講師の先生を招いて、高度な技術を身近で体験した。

其々の学年とも、年度当初に比べ、また、学年が上がるにつれ体力測定の記録は伸びている。グループ学習を通じて、常に声をかけあい、励まし合い相互評価、自己評価をする場面を設け意欲向上につなげている。

取組内容②－8【各教科】〈技術・家庭〉

「関心・意欲・態度」授業において、生活に密着した身近な例をとり挙げて説明をしたり、パソコンや大型モニタ、プロジェクタ等を使用して生徒の興味・関心を高めるような工夫を行った。また、班活動やその取り組みの発表を行い、生徒が自ら考え意欲的に取り組む姿勢が見られた。

「工夫し創造する能力」1、2年生は全体の1/4程度、3年生においては1/3程度の生徒が、授業の

ノートやプリントにメモをとる、自主学習を提出する等、自主的に独自の工夫を行っていた。
「技能」実習時間を確保し、技術家庭合わせて全授業時間の 1/3 程度を実習にあてることができた。
その結果生徒達は班で協力して積極的に実習に取り組み、多くの技能を身につけた。その後の振り返りレポートには「自分の力でつくることができて良かった」「家でもつくってみたい」「生活にかاشていきたい」等、意欲的な感想が多かった。
「知識・理解」定期テストの結果、自主学習している生徒も多く平均 60 点前後であった。

取組内容②－9【各教科】〈英語〉

- ・「関心・意欲・態度」については、提出物(自主学習ノートも含む)や忘れ物チェック等を行った。忘れ物がなくなるように、継続して指導した。また英語構文や調べ学習のペアワーク・グループワークを取り入れることで相互にサポートしあう授業作りを心掛けた。
- ・スピーキングテストは C-NET の協力のもと、3 年生は 6 回、2 年生は 10 回、1 年生は 2 回行った。英作文においては C-NET の先生とも連携をし、指導力強化に努めた。
- ・「理解の能力」については、授業中においてリーディングテスト、リスニングテスト、定期テストや実力テストにおいて読解力を図った。
- ・「知識」については、主に定期テストや実力テスト、英単語コンテストを行い、定着を図った。またその他、文化的な事柄について C-NET との TT で動画を活用し、異文化理解を深めている。
- ・1 年生の少人数授業の実施前後のアンケートにおいて、「今の授業形態が学び易いと思う」の割合は 17% であった。
- ・2 学期実施の実力テストの平均正答率は 75%(1 年)、61%(2 年)、46%(3 年) であった。
- ・英検 IBA において、1 年生と 2 年生では「語彙・熟語・文法」、3 年生では「リスニング」の項目でそれぞれ大阪市との差があった。

取組内容③【図書館】

今年度も、図書館補助員の方に協力により、夏休みの人権作文に関連して、図書室にも人権、道徳の本を集めてコーナーを作り、机、椅子の配置も変えてレイアウトを変更することで、より本を読みやすい環境作りに努めたことをきっかけとし、以後、3 か所のコーナーを設置した。それぞれのテーマに添った本を展示、こまめに更新しながら本を手にする機会を増やした。また、夏休み明けに行ったアンケートでは、「読んでいる途中の本はあるか」との質問に対し、3 学年共に 50% の生徒が「ある」と回答、その後も継続的に朝読書を実施したことで、3 学期の国語科独自のアンケートでは、「読書の習慣がついてきている」と答えた割合が 3 学年で 52% という結果になった。朝読書には多くの課題が残っているものの、本が手元にある環境が身に付いている生徒も増えつつあると考える。図書館の利用率は約 10% と目標値には達していないものの、読書習慣の向上は実践することができた。

<p>取組内容④【若手教員研修の充実】</p> <p>今年度も充実した研修を実施することができた。内容は、仕事をしていくうえで押さえておくこと、物事の見方、子育てをしながら働くうえで大切なこと、生徒との関わり方、教師としてのやりがい、に関する講話をベテラン教職員から、6年目以上の教職員によって実施した。また、ICTに関する研修（タブレットの使い方）だけでなく、道徳の模擬授業（友情のあり方、モラル・規則を守る大切さ）も実施することができた。</p> <p>取組内容⑤－１【学力向上 各学年 １年】</p> <p>各教科とも、自主学習、家庭学習の充実に向けた取組みを行うことができた。各クラスとも、8割を超える生徒が自主学習を行っている。長期休業における補習も定着している。</p> <p>取組内容⑤－２【学力向上 各学年 ２年】</p> <p>各教科で、宿題や課題の頻度を増やしながら、家庭学習の定着に努めてきた。自主学習については、教科間で温度差はあるものの、積極的に取り組む生徒が増え、昼休みに学習室や教室で自主的に学習に取り組む生徒も少しずつ増えてきた。</p> <p>取組内容⑤－３【学力向上 各学年 ３年】</p> <p>早朝、昼休み、放課後の学習を積極的に行うことにより、自主的に参加する生徒が増えるとともに、個々が自らの課題を見つけ、学習に取り組もうとする姿勢を持つ生徒も増えた。</p>
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p>
<p>取組内容①－１【教務】授業を伴う校内研修の充実</p> <p>同じ教科だけでなく、異なる教科の研究授業に参加できるようにする為には、異なった形態での研究授業の持ち方を考える必要があると考える。金曜日の6限を利用した研究授業及び研究協議の持ち方を含めて、研究授業の在り方を工夫していきたい。</p> <p>取組内容①－２【教務】自主学習習慣の確立</p> <p>自主学習や、その日に学んだ事の復習や確認を習慣づけるように、各教科でさらに促していくとともに、家庭へのさらなる協力をお願いも必要であると考え。自主学習や復習について、どのようなことをやればよいか、具体的な方法をいくつか提示してでも、進めていく必要がある</p> <p>取組内容①－３【教務部 ICT 機器の活用】</p> <p>ICT 委員会を中心に機器の整理・活用を計画していくことが必要である。機器の管理簿の作成や使用状況がわかるような仕組みを考える。</p> <p>タブレットを取り入れた学習方法の研修や教材に関する情報を収集する。</p> <p>各教室の ICT 環境を整える必要がある。数か年の計画で考える。</p>

取組内容②－１【各教科】〈国語〉

学年末に実施したアンケートの結果、少人数授業に関する項目「国語の授業はわかる」において、「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」といった肯定的な意見の割合は１学期末に実施したアンケートの８５％に比べ９１％と６％上がった。指標の１０％増にはいかなかったが、単純分割だったクラス編成を基礎・応用クラスと学習内容に応じて編成したこと、また、書写の授業や作文指導なども少人数授業で取り入れ、質問がしやすい環境づくりをおこなったことが結果につながったと分析する。

一方、２学期実施の実力テスト「国語」の平均正答率は５８％（１年）・４８％（２年）・５１％（３年）と指標を１０％近く下回る結果だった。夏季休暇直後の実力テストだということもあり、他教科に比べて家庭学習の習慣がついていないからだと考える。普段の授業から演習問題を意識した指導を行ったり、漢字・語句プリント以外の家庭学習課題を増やしたりするなどして基礎学力につなげる必要がある。

取組内容②－２【各教科】〈社会〉

A Lの教材や質問の設定に対する研究と、A Lしながらの授業が予定通り進むような工夫を行い、関心意欲を高め、社会的な思考・判断ができる目を養っていききたい。演習問題。にも取り組む時間が持てるよう、教材の精選も必要である

取組内容②－３【各教科】〈数学〉

今年度、アクティブ・ラーニングやＩＣＴを取り入れた授業が少なかった。わからない問題の教え合いといった一部の活動だけでなく、授業全体の中に、全員が言語活動できる状況を企画し、生徒の理解力だけでなく興味関心を引き付け、それが学力の底上げに繋がる授業を行っていききたい。

取組内容②－４【各教科】〈理科〉

各分野においての基礎的な実験の時間を確保する。

協働的な学習の時間を設ける。

年間のカリキュラムマネジメントを年度当初に教科内で確認する。

各テストにおいて平均正答率を下回っているため、基礎的な学力の向上を図る。

取組内容②－５【各教科】〈音楽〉

器楽・歌唱などの実技では、自分の音を出すことから、自分の音を聴くことへ注目できるようにしていく。そのために、グループ発表会の機会を増やさせ、録音、録画などＩＣＴを利用していく。

取組内容②－6 【各教科】〈美術〉

- ・授業に必要な備品や用具・材料の整備を引き続き行い、不備、不足を補うこと。
- ・実習では、自分の表現したいものと、それを実現する力量を感じ、スケッチが進ず、つまり生徒がいるので、基本的なスケッチの練習を取り入れ、発想のきっかけづくりになる資料を増やし、提供の仕方などの改善をはかる。
- ・各授業の本時の目標を提示してすすめているが、意欲不足で作業に遅れがちな生徒には、継続的に助言する必要がある。

取組内容②－7 【各教科】〈保健体育〉

集団としてスムーズにカリキュラムに取り組めるよう、安全への配慮、集団行動の徹底、リーダー養成及びグループ学習の質を学年が上がるごとに向上させる。

日々のトレーニングを継続することで個々の体力の向上を目指す。

取組内容②－8 【各教科】〈技術・家庭〉

実習時間は確保しているが、設定時間内に実習が終わらなかった生徒もいた。また、実習や班活動では、積極的に参加する生徒もいるが、なかには自分で考えようとせず友達任せにしたり、すぐに教員に質問をする生徒もいた。そのため、取り組み内容、実習への事前指導、実習時間配分を考え直す必要がある。また座学におけるアクティブラーニングの充実のため班活動の時間を増やしたい。

取組内容②－9 【各教科】〈英語〉

1年生では1学期に分割少人数授業でフォニックス指導、2年生では習熟度別少人数授業でのアクティブラーニング、3年生では習熟度別授業において班活動を取り入れたアクティブラーニングを取り入れ、受験に関する学習をすすめた。

C-NET との T.T では年間を通して異文化理解の授業やスピーキングテストなどのパフォーマンステストを行い、コミュニケーション能力の向上を目指した。

英検 IBA における、「語彙・熟語・文法」、「リスニング」、「読解」の能力をバランスよく伸ばすための対策を増やす。

取組内容③ 【図書館】

来年度は、図書館の利用率を上げていくために、図書室での取り組み、また図書便りの配布、新刊が入った際は、呼び掛け等を行っていく。

取組内容④ 【若手教員研修の充実】

来年度は、メンティーの教職員だけでなく、ベテラン教職員との授業見学を含めた交流を積極的に実施していきたい。

取組内容⑤－１【学力向上 各学年 １年】

金曜６限の活用について、計画的に進めたい。読書習慣の定着を、さらに図っていく。

取組内容⑤－２【学力向上 各学年 ２年】

放課後の時間を利用しての補習や、早朝の勉強会などの取り組みを増やして、３年の受験に向けての意識を高めていきたい。

取組内容⑤－３【学力向上 各学年 ３年】

個々の意識を高め、自学自習の力をつけるとともに、授業に対する学級全体の学習意欲を高めるための取り組みを積極的に行う。

大阪市立市岡中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>○学校評価アンケートの「学級や学年でいじめや問題行動が起きない雰囲気がある」と回答する生徒の割合を80%以上とする。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○学校評価アンケートの「地域や防災の活動に役立ちたい」と回答する生徒の割合を80%以上とする。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○学校評価アンケートの「学校が開かれている」と回答する保護者の割合を80%以上とする。（ガバナンス改革関連）</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【道徳教育の推進】</p> <p>・年間計画に基づき、道徳の授業を確保し、授業に使用する教材の研究、整備に努め、系統的、継続的な取り組みができるように努める。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標 「平成28年度の学校評価アンケート(生徒)」の結果において、道徳の学習を通して自他を尊重し、互いを思いやる心が養えてると思う。と回答する生徒の割合を80%とする。</p>	B
<p>取組内容②【人権を尊重する教育の推進】</p> <p>・各学年、学級、部、委員会、校内組織などと連携し、生徒の生活課題を把握し、共通理解する中で、生徒の学ぶ力、生きる力を育む実践を創造し人権教育を推進する。</p> <p>・特別支援教育では、通常学級との交流を行い、共に豊かに生きる集団育成に努める。また、保護者連携を大切にし、進路保障に努める。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標 「平成28年度の学校評価アンケート(生徒)」の結果において、人権の大切さについて学ぶ機会が多いと答える生徒の割合を80%以上とする。</p>	B
<p>取組内容③【キャリア教育の推進】</p> <p>・生徒一人一人が自分の個性や存在の大切さを自覚し、互いに認め励ましあい、高めあうことができる集団の育成に努める。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標 「平成28年度の学校評価アンケート(生徒)」の結果において、将来の進路や生き方について考えたことがあると答える生徒の割合を昨年度より増やす。</p>	B

取組内容④【校種間連携】 ・小・中学校の一貫した学習指導や生活指導の方法などの研究に努める。 <div>(マネジメント改革関連)</div>	B
指標 「平成２８年度学校評価アンケート」の結果において、校種間連携が進んでいるとする割合を昨年度より増やす。	
取組内容⑤【いじめへの対応】 ・全教職員があらゆる場面において、いじめは絶対に許されないものであることを指導し、いじめを未然に防ぐよう努め、早期発見、対応に協力して取り組む。アンケートも実施する。 <div>(カリキュラム改革関連)</div>	B
指標 「平成２８年度学校評価アンケート(生徒)」の結果において、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと考えることや、そのような雰囲気を出させない」生徒の割合を９５％以上にする。	
取組内容⑥【問題行動への対応】 ・問題行動について情報を共有し、発生時には全教職員で協力、連携して対応にあたる。 <div>(学校サポート改革関連)</div>	A
指標 校務部会、主任会、職員会議、職員朝礼などで情報を共有し、生活指導の共通理解を図り、全教職員が協力、連携して指導にあたる。	
取組内容⑦【防災教育の推進】 ・各種防災訓練、道徳、総合の時間等を通じ、防災に関する意識を高める。 <div>(マネジメント改革関連)</div>	B
指標 「平成２８年度学校評価アンケート(生徒)」の結果において、「地域や防災に役立ちたい」とする割合を８０％以上にする。	
取組内容⑧－１【特別活動 生活指導部】 ・生徒会専門委員を分担し、生徒会活動を充実させる。 ・学校行事、学級活動、部活動などを通じ、集団意識を高める。 ・部活動の充実、活性化を図る。 <div>(マネジメント改革関連)</div>	B
指標 「平成２８年度の学校評価アンケート」の結果において、「学校は特別活動の充実に努めている」と答える割合を８０％以上にする。	
取組内容⑧－２【特別活動 各学年】 (１年) 様々な活動を通して、連帯感や責任感を大切にし、挨拶や感謝の気持ちを伝え合える集団を育成する。 (２年) 様々な学校行事・学年行事を経験させながら、仲間を意識して支え合える集団を育成する。自分自身の特性を見つめ直し、進路を考えさせる機会を持たせる。 (３年) 学校行事、学年行事の活動を通して、自主性を育て、進路に向けて自らが考え、選択できる力をつけさせるとともに、他人の気持ちを考え、自分の言動に責任を持ち、自分のことだけでなく相手のために考え行動できる人間性を育む。	B

(カリキュラム改革関連)		
指標	「平成28年度の学校評価アンケート(生徒)」の結果において、体育大会や文化祭、芸術鑑賞、宿泊行事などの学校行事は楽しみであると答える生徒の割合を、80%以上とする。	
取組内容⑨【国際理解教育の推進】		B
・ 「帰国した子どもの教育センター校」と連携して、多文化共生教育の推進に努める。 ・ 各活動において、人権教育に基盤を置いた国際理解、多文化共生教育に努める。 (マネジメント改革関連)		
指標	「平成28年度の学校評価アンケート(保護者・生徒)」の結果において、学校は国際理解教育の推進に努めていると答える割合を80%以上とする。	
取組内容⑩【美化・環境整備】		B
・ 校舎内外の美化、清掃を徹底するとともに、机・椅子等の公共物を大切にすることを高める。 (カリキュラム改革関連)		
指標	「平成28年度の学校評価アンケート(保護者・生徒)」の結果において、「学校は美化・環境整備が整っている」と答える割合を昨年度より増やす。	
取組内容⑪【学校・家庭・地域の連携の推進】		B
・ 地域の行事や取組に積極的に参加するとともに協力する。特に吹奏楽部は地域からの参加協力要請が多くあり地域の期待に応えられるよう努める。 ・ 地域との連携を深めるため、土曜日に本校茶道部が地域の方を招待し、お茶会を実施する。 (学校サポート改革関連)(ガバナンス改革関連)		
指標	「平成28年度の学校評価アンケート(生徒)」の結果において、「今住んでいる地域の行事に参加している」と肯定的に回答する割合を80%以上とする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容①【道徳教育の推進】		
今年度は、各学年、1つの教材を1人の教員が4クラス教えるという形式で取り組んでおり、教員の教材研究を深めることができた。学校評価アンケート(生徒)でも、「道徳心や人権について学ぶ機会が多く、命の大切さや自他を尊重し互いを思いやる心が養えていると思う」で85%の肯定的な回答を得ることができ、大阪府中学校道徳研究会大阪市大会のプレ公開授業での取り組み(1つの教材を4人の教師が教え、教授・指導の仕方について反省会を持つことなど)や、道徳の研修会の参加、学年での道徳の取り組みや生徒の様子などを人権教育委員会で報告していることなどの取り組みの成果が表れていると考えられる。		

取組内容②【人権を尊重する教育の推進】

各学年、人権教育の計画を立てて、実行した。学校評価アンケート（生徒）の「道徳心や人権について学ぶ機会が多く…」の項目で 85%、また、学校評価アンケート（生徒）の「道徳や人権学習を通じていじめはどんな理由であれ許されない行為であると学び、考え実践する事が出来た」では 91%の肯定的な回答が得られたように、人権に関わる作文、防災教育の取り組み、人権講演会など学校全体での人権教育や、人権に関わる問題が起こった時には集会を開いたり、生徒の生活課題に応じた教育を総合の時間を使って行うなどの取り組みが、一定の成果を得ていると考えられる。

取組内容③【キャリア教育の推進】

学校評価アンケートの「総合等の取り組みを通して将来の進路や生き方について考える機会があった」の項目で 82%の肯定的な回答を得られた。中高連携講座の開設や、進路説明会の実施に伴い、全学年に周知するなど、進路を考える機会を多く設けたこと、1・2 年生ではキャリア教育の一環で講師を招き、職業適性などの取り組みを行ったこと、また、2 年生で職場体験、1 年生でものづくり体験を行うことなどが、肯定的な意見を作り上げたと考えられ、またその中で互いに高め合う集団を育成できるよう各学年取り組んだ結果であると考えられる。

取組内容④【校種間連携】

4 校合同研修会で教科・領域で話し合いその内容を実行できるようすすめ、実行することができた。しかし、全教科実行できているわけではないので来年度の課題とする。また、今年度は学校体験など今までと違うスタイルを取り入れ実行することもできた。

取組内容⑤【いじめへの対応】

いじめ防止対策推進法のマニュアルの研修を実施し、教職員が適切に対応できる体制を整えることができた。また、教職員全体の情報共有も徹底させることができた。ただ、生徒アンケートは指標に届かなかった。

取組内容⑥【問題行動への対応】

どんな些細な問題行動に対しても、各学年・各学級担任が生徒と向き合って指導した。また、指導した内容を教職員と情報を共有し、気になる生徒に対して様々なアプローチをすることができた。

取組内容⑦【防災教育の推進】

今年度も計画通り（津波・地震・火災）に訓練を実施することができた。また、今年度は新たに防犯に関する訓練も実施することができた。しかし、災害時の動きを理解している生徒の数はアンケート結果では指標に届かなかった。

取組内容⑧—①【特別活動 生活指導部】

学校行事など、生徒主体で動かす流れを作ることができた。委員会活動に積極的に関わる生徒が増えてきた。

取組内容⑧—2【特別活動 各学年】

- (1年) 各活動を通して、班長を中心とした班行動に努め、結果、連帯感、責任感、達成感を感じられる集団になりつつある。
- (2年) 校外学習では、生徒同士で協力し合って、トラブルもなく全ての班が全ての目的地を回って帰ってくることができた。職場体験では、各事業所ごとのリーダーを中心に、様々なルールを守り、働くことの充実感を体験し、進路に向けて貴重な学習を取り組めた。2月・3月では、クラスの仲間と気持ちを1つにした『合唱コンクール』に取り組むための指導を行っている。
- (3年) 多くの行事を経験しながら自分たちで工夫しながら積極的に参加、行動できた。苦しいときにクラス全体で励ましながら頑張る姿勢もみえた。

取組内容⑨【国際理解教育の推進】

学校評価アンケート（保護者）の「学校は、国際理解教育の推進に努めている」では 74%の肯定的な意見であった。目標に到達できなかったのは、その取り組みが少なかったからだと考えられる。しかし、2年生では日本語適応教室と連携しながらの中国からの転入生の日々の教育の支援、中国の教育や言葉や遊びを紹介しながらの国際理解教育、平和学習の実施などの取り組みを行ったからか、83%の肯定的な意見があった。また、文化祭での母国紹介、民族交流会への参加、「中国語弁論大会」への参加、民族料理会への参加など、今年度は2年生の生徒が参加する機会が多かったことも、肯定的な意見を作り上げた要因だと考えられる。また、本年度は中学校・校下小学校3校の外国人教育主担者会を行い、継続的に各校の外国人教育の取り組みについての情報交換も行った。

取組内容⑩【美化・環境整備】

(美化)

- ・校舎内外の美化・清掃を徹底するように指導した。
- ・美化委員会では、通常の清掃区域外（1号館3階廊下・LL教室・2号館4階廊下）の清掃に取り組んだ。また、ポスターを作成・掲示し、校舎内に砂を持ち上げないように呼びかけた。
- ・ふれあい清掃では、事前に係生徒にごみの分別の指導をしてから取り組むことで、時間内に正確に行うことができた。

(環境整備)

- ・使用に適さない机の天板を交換した。

取組内容⑩【学校・家庭・地域の連携の推進】

- ・吹奏楽部は地域の各種団体より演奏依頼があり、市岡小学校 100 周年、盲導犬チャリティーコンサート、老人ホーム(はまなす園)、たそがれコンサート(大阪城音楽堂)、ふれあい音楽会(オーク)、弁天ウェーブなど地域に出演し、交流を深めた。
- ・茶道部は 11 月 5 日(土)に多目的室に於いて「磯路ふれあい大茶会」を実施し、磯路地域在住の皆様にお点前を披露した。

今年度も吹奏楽部、茶道部を中心とした地域と連携を図り活動してきたが、「平成 28 年度の学校評価アンケート(生徒)」の結果において、「今住んでいる地域の行事に参加している」と肯定的に回答する割合は 49%となり、概ね半数の生徒達でしか実行されていない状況であり、目標を大きく下回る結果であった。しかし、「地域での活動・防災活動で役に立ちたい」と肯定的に考えている生徒は 72%にのぼり、今後地域との連携が十分取れる状況であることを示す結果であった。

次年度への改善点

取組内容①【道徳教育の推進】

さらに道徳の授業の研究を重ね、平成 31 年度からの道徳の評価に向けて、評価する手段について、SKIP の「いいとこみつけ」を活用するなど、これから考えていかなければならない。

取組内容②【人権を尊重する教育の推進】

3 年間を見越した人権教育の実施計画をさらに具体的に考えていきたい。

取組内容③【キャリア教育の推進】

日々の活動の中で、自他を認め、励まし合うことが進路につながることを、進路に関する学習を通して伝えていく機会をさらに増やす。

取組内容④【校種間連携】

小・中の連携をもっと密にし、今年新たにした取り組みについては来年度も継続していきたい。

取組内容⑤【いじめへの対応】

教師間の連携を密にし、学年・学級・部活動における生徒の情報交換を活発にし、生徒のどんな細かな様子も見過ごすことのないように教職員全体で取り組んでいく。

取組内容⑥【問題行動への対応】

来年度もこの動きを継続していきたい。

取組内容⑦【防災教育の推進】

アンケート結果から、避難訓練の有り方を再度検討する必要がある。また、来年度は地域の方々と交えた訓練も視野に入れて取り組みを考えていきたい。

取組内容⑧－１【特別活動 生活指導部】

来年度は生徒会執行委員の生徒を中心により生徒主体の学校にしていくつもりである。

取組内容⑧－２【特別活動 各学年】

- (１年) 本年度の成果をもとに、さらに前進し、進化した集団づくりを育成していきたい。
- (２年) 様々な行事や活動を行う中で培った連帯感や責任感を、さらに推し進められるような取り組みを行っていききたい。また、進路学習等で情報を提供し、一人ひとりが進路について考えられるように取り組みを行っていききたい。
- (３年) 行事に対して班活動を多く取り入れ、班長、学級代表を中心とした集団活動を学ばせる。

取組内容⑨【国際理解教育の推進】

学年独自の取り組みとせず、全校で取り組む機会を設けたい。

取組内容⑩【美化・環境整備】

(美化)

- ・美化委員会での区域外清掃を継続し、他の区域も清掃する（２号館４階窓等）。

(環境整備)

- ・校内の衛生に必要な備品の購入計画を立て、計画的に使用できるようにする。
- ・ユニバーサルデザインの観点も活用し、生徒が生活・学習しやすい環境を整備できるように取り組む。

取組内容⑪【学校・家庭・地域の連携の推進】

- ・これまで通り、吹奏楽部や茶道部活動による地域連携を行い、より深化させる。
- ・学校防災・地域防災を連動させ、地域と連携した防災活動を計画し、訓練活動などを共催する。

大阪市立市岡中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 ○学校評価アンケートの「朝食はしっかり摂っている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 （カリキュラム改革関連） ○学校評価アンケートの「自分の健康に関心を持っている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 （カリキュラム改革関連） ○学校評価アンケートの「地域や防災の活動に役立ちたい」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 （カリキュラム改革関連） ○「体力・運動能力、運動習慣調査」において、大阪府平均を上回る。 （カリキュラム改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【食育】 ・「食育だより」などを活用して生徒、保護者の意識を高める。 ・保健委員会を中心に調べ学習を行い、「食」への関心を高める。（カリキュラム改革関連） 指標 「平成28年度の全国学力・学習状況調査」の結果において、朝食を毎日食べている生徒の割合を昨年度より増やす。	B
取組内容②【健康な生活習慣の確立】 ・保健だよりなどを通じて、疾病予防意識を高め、心身ともに健康な体作りの推進を図る。 ・各種検診の結果をもとに治療勧告をし、早期治療を図る。本人、保護者にも意識を持たせるよう指導を行う。 ・毎年1年生対象に「歯と口の健康教室」を開催し、歯の健康意識を高める。 （マネジメント改革関連） 指標 平成28年度は昨年度よりう歯についての罹患率を減らし、受診率を増やす。	B
取組内容③【体育的行事の充実】（保健体育科） ・学校行事、学級活動の充実を図る。 ・部活動の活性化に努める。 （カリキュラム改革関連） 指標 3学期に行う「保健体育科」の授業アンケートの結果において、運動やスポーツをすることに興味が増したと答える生徒の割合を90%以上とする。	B

取組内容④【体力向上への支援】（保健体育科） ・授業内容や教材を工夫し、生徒に運動への興味関心を持たせる。	B
指標 単元ごとに教師間で意見交流し運動が好き、もっとしたいという生徒を増やす。	
取組内容⑤【体力向上の取組 各学年】 （１年）学年集会、学年活動を通して、基本的生活習慣、規律ある行動を身につけさせるとともに、活動することへの興味関心を高める。 （２年）基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、健康に関する学習や指導を行い健康に対する意識を高める。スポーツ大会を計画・実施することにより、学年全体で積極的に運動に取り組む機会を増やす。 （３年）基本的生活習慣を身につけさせ、進路に向けて健康意識を高める。また、最高学年として体育行事、部活動により積極的に取り組む姿勢を育てる。	B
指標 「平成２８年度の大阪市体力・運動能力調査」の結果において、各学年の合計得点を昨年度の水準より増やす。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【食育】 ・毎月「食育つうしん」を発行し、生徒・保護者へ食育に関心をもつように努めた。 ・教科指導の一環で、食に関する意識を高める学習を行った。	
取組内容②【健康な生活習慣の確立】 ・「ほけんだより」を発行し疾病予防意識を高め、心身ともに健康な体作りの推進を図った。冬休み前には、休み中の過ごし方や病気の予防についての特別号を発行した。 ・保健委員会で、感染症の予防・健康な体作りを呼びかけるため、ポスターを作成・掲示した。 ・各種検診の結果をもとに治療勧告をし、早期治療を図った。治療勧告は、年間を通じて行い、本人・保護者の意識を高めるように指導した。その結果、歯科検診でう歯の勧告を受けた生徒の治療率は約４８％となった（２月１７日現在）。平成２７年度最終評価の３９％と比べ、約９％上昇させることができた。 ・１年生対象に、歯の健康意識を高めるため、「歯と口の健康教室」を開催した。	
取組内容③【体育的行事の充実】（保健体育科） 体育大会では各学年とも、練習、準備、学級旗作成、係分担など多くの場面で生徒主体で関わることができた。１，２年生においては、マラソン大会から駅伝大会に移行して２年目で年々内容を吟味しながら改良していく。	
取組内容④【体力向上への支援】（保健体育科） 授業の中で、ランニング、体操、トレーニングを毎時間取り入れ定期的に測定を行っている。	

取組内容⑤【体力向上の取組 各学年】

- (1年) 各活動を通じ、基本的な生活習慣、規律ある行動を意識しつつ行動できた。
- (2年) 基本的な生活習慣を身に着けさせるように、注意・喚起を続けてきた。駅伝大会やスポーツ大会に取り組む中で、仲間の健康状態に配慮させながら、体力向上を目指して取り組みを行えた。
- (3年) いろいろな活動を通して、体力や健康に対する意識が高まり、インフルエンザの流行にも大きな影響を受けることなく進路に向けて学習できた。

次年度への改善点

取組内容①【食育】

- ・毎月の「食育つうしん」を継続し、生徒・保護者の意識を高める。

取組内容②【健康な生活習慣の確立】

- ・治療勧告を受け、未治療の生徒には、再勧告書を発行するなど指導を継続し、治療率の向上を図る。
- ・保健委員会では、季節や学校の状況から多様なテーマを取り上げ、ポスターや「ほけんだより」を発行し、情報を発信する。

取組内容③【体育的行事の充実】(保健体育科)

計画的に、準備、計画を行っていく。

取組内容④【体力向上への支援】(保健体育科)

体力向上をめざし、時間内でのトレーニングの時間を確保する。

取組内容⑤【体力向上の取組 各学年】

- (1年) 本年度の活動成果を、次年度はさらに推し進め、体力向上に向けた取組みを計画していきたい。
- (2年) さらに健康に対する意識を高められるように指導・取組みを行っていく。最高学年として、部活動に積極的に取り組む姿勢を育みながら体力の向上を図っていきたい。
- (3年) 基本的な生活習慣、規律ある行動を身に着けさせる。

大阪市立市岡中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 特別支援教育の充実】</p> <p>○障がいのある生徒の「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を保護者との共同作業で作成する。そして、学校評価アンケートの「一人ひとりをたいせつにした教育を推進している」と回答する生徒の割合を90%以上とする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○校内のユニバーサルデザインを確立し、授業のユニバーサルデザインを推進し学校評価アンケートの「学校の教育環境は整っている」と回答する生徒の割合を、80%以上とする。 (カリキュラム改革関連)</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【特別支援教育の充実 情報交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒についての、効果的で全校的な情報交換を実施する。 (カリキュラム改革関連) <p>指標 定期的に「特別支援委員会」を開催し、効果的で全校的な情報交換をする。</p>	B
<p>取組内容②【特別支援教育の充実 生徒対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒に応じた、より適切な対応（指導・支援）を実践する。 (カリキュラム改革関連) <p>指標 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づいた指導と支援を行い、生徒が社会に自立できるよう、可能性を伸ばす</p>	B
<p>取組内容③【特別支援教育の充実 進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学前、卒業後も含めた進路指導を実践する。 (カリキュラム改革関連) <p>指標 ・新入生については進学相談、中学校見学会、小中連絡会、入学前懇談会等を行い、小学校や保護者との連携を密にはかる。 ・卒業生については、中高連携を深めることにより、生徒把握に努める。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【特別支援教育の充実 情報交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会を学期に一度開催し、個々の生徒の全校的な情報交換を行った。また、2学期には、月に一度特別支援小委員会を開催し、より効果的な情報交換を行えるようにした。この 	

委員会では、特別支援学級に在籍している生徒の情報交換に加えて、特別支援学級に在籍していないが、支援の必要な生徒についての情報交換を行うことで、特別支援学級と通常学級がより連携できるように運営した。

- ・特別支援教育サポーターを活用し、入り込み・抽出での学習支援の機会を増やした。また、特別支援学級に在籍していないが、支援の必要な生徒の把握に努め、学習支援した。
- ・特別支援教育モデル研究実施校に応募し、個々の生徒の課題の把握と適切なアプローチについて専門的な意見を聞くため、巡回相談を行った、また、講師を招き、教員向けに発達障がいに関する研修を行った。
- ・1学期の生活・学習の様子から、特別支援学級に在籍していないが、支援の必要な生徒について、情報を共有し把握した。必要と思われた生徒には、2学期に通常学級担任とともに、本人・保護者と教育相談を行った。また、発達検査を勧め、結果を通常学級担任とともに聞きに行き、生徒理解を深めることができた。
- ・各学期末に、保護者会を開き、学校・家庭での様子について意見交換し、家庭との連携を図った。特に、学校で行っている支援・配慮を家庭でも行ってもらうことが、本人の自立・成長につながることを説明し、理解を求めた。

取組内容②【特別支援教育の充実 生徒対応】

- ・「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づいた指導・支援を行った。「個別の教育支援計画」は、年度はじめに保護者と協議しながら作成し、署名で確認をした。「個別の指導計画」は、学期ごとに見直しをし、全教員に回覧し意見を求めた。
- ・校内のユニバーサルデザインを確立する取り組みとして、テニスボールを特別支援学級教室・美術室・理科室・被服室・通常学級教室（1 - 2）の机・いすに取り付け、消音効果をもたらした。校内・授業のユニバーサルデザインを推進するため、教員向けに具体的な工夫に関する説明を行った。
- ・小学校と障がい理解教育に関して情報交換を行い、連携を深めた。

取組内容③【特別支援教育の充実 進路指導】

- ・2学期に、来年度新入生の進学相談を行い、中学校の特別支援学級の生活・学習の様子について説明し、適切な進路選択ができるようにした。また、小学校で行っている個別の配慮を聞き取ることで、中学校への移行が円滑にできるように連携した。進学後の配慮・支援に不安のある保護者には、個別に相談する機会をもち、相互理解を図った。
- ・特別支援学級に在籍していないが、支援の必要な生徒の情報を把握するため、各小学校へ見学に行った。
- ・昨年度卒業生の進学先のサポート会議に出席することや保護者に近況を聞き取ることで、卒業後の生徒の状況把握に努めた。卒業生の高校・高等部卒業後の進路についても情報収集した。

次年度への改善点

取組内容①【特別支援教育の充実 情報交換】

- ・特別支援委員会・特別支援小委員会を充実させ、具体的な支援に結びつける。
- ・特別支援学級に在籍していないが、支援の必要な生徒について、通常学級・保護者と連携し、適切な支援をする。
- ・ひきつづき各学期末に、保護者会を開き、学校・家庭の連携を深める。

取組内容②【特別支援教育の充実 生徒対応】

- ・「個別の指導計画」を、学期ごとに見直し、生徒の課題・つけさせたい力を見極め、柔軟に指導・支援する。
- ・消音効果のため、テニスボールを取りつけることは、他の教室にも展開する。加えて、校内・授業のユニバーサルデザインを推進するため、基礎的環境整備を行う。

取組内容③【特別支援教育の充実 進路指導】

- ・来年度新入生の進学相談を継続し、小学校との連携を深め、本人・保護者の入学への不安を軽減する。
- ・卒業後の生徒の状況把握を継続し、在校生の進路選択に幅をもたせる。